

5. 国際森林年子ども大使

国際森林年に当たり農林水産省は「葉っぱのフレディ」の出演者 21 名を「国際森林年子ども大使」に任命。

フレディーズ（出演者たち）は全国植樹祭や全国育樹祭をはじめ、様々な国際森林年イベントに参加し、森林の重要性について普及啓発に取り組んだ。

■「葉っぱのフレディ」について

「葉っぱのフレディーいのちの旅ー」は日野原重明氏（聖路加国際病院理事長）の企画・原案によるミュージカルで、例年夏に全国各地で公演を行っている。葉っぱの短い一生を通じ「いのち」の尊さと循環を描いた作品であり、キャストについては、宝田明氏以外は 21 名の小・中・高校生を中心に構成。

また、3月11日の東日本大震災以降、「フレディ・ロード大作戦」を発表し、

- (1) 東北地方の美しい「彩（いろ）」を一日でも早く取り戻せることを願い、緑のメッセンジャーとして応援するとともに、
- (2) 被災地の人々に歌やダンスをお届けしたりする慰問活動や、上演する本公演への招待などを行っている。



■ 国際森林年子ども大使「葉っぱのフレディ」の活動実績

【活動実績】

■2011年

3月8日 国際森林年子ども大使任命式

【出席者】 鹿野道彦 （農林水産大臣）
田名部匡代 （農林水産大臣政務官）
溝畑宏 （観光庁長官）
皆川芳嗣 （林野庁長官）
黒岩祐治 （総合プロデューサー）ほか

【報道状況】

朝日新聞（3/9）

3月9日	2011 魅力ある日本のおみやげコンテスト授賞式
5月7日	はなの森植樹体験ツアー（山梨県笛吹市）
5月22日	「いのちの森」植樹祭（東京都豊島区南長崎はらっぱ公園）
5月22日	第62回全国植樹祭（和歌山県田辺市）
6月12日	東日本大震災被災地への慰問活動（宮城県大崎市など）
6月16日～18日	オートサービスショー2011（東京ビッグサイト）
8月4日～5日	東海地区緑の少年団サマージャンボリー（岐阜県）
8月17日～18日	子ども霞ヶ関デー
9月11日	北海道森林管理局による記念シンポジウム（札幌市）
9月17日～25日	BS日テレの国際森林年記念番組放送
10月9日	同上
10月1日	「高尾の森・ふれあいと学びのキャンペーン」キックオフ
10月14日、15日	エコ整備フォーラム2011（大阪ATCホール）
10月23日	市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in おおさき
10月30日	プレゼントツリー植林活動（岐阜県高山市）
11月9日	シンポジウム「森のチカラで、日本を元気に。」
11月19日	全国緑の少年団活動発表大会（奈良県橿原市）
11月20日	第35回全国育樹祭（奈良県平城京跡）
11月26日	森のめぐみにふれあうフェア（有楽町駅前広場）
11月26日	BSフジの国際森林年記念番組放送
12月15日	エコプロダクツ2011（東京都江東区）

■2012年

1月17日	農林水産大臣感謝状贈呈式・報告会
	【出席者】 鹿野道彦（農林水産大臣）
	田名部匡代（農林水産大臣政務官）
	黒岩祐治（神奈川県知事）
	皆川芳嗣（林野庁長官）
	末松広行（林野庁林政部長）ほか
	【報道状況】
	日本農業新聞（1/18）

【公演実績】

7月29日～31日	東京公演
8月6日	大阪公演
8月27日	所沢公演
8月29日	浜松公演
9月29日	新潟公演
10月18日	特別公演

【名簿】

春組フレディ	碓井なずな	(うすい なずな 小5)
夏組フレディ	井坂泉月	(いさか みづき 中1)
春組クレア	長澤夏実	(ながさわ なつみ 中3)
夏組クレア	土屋美晴	(つちや みはる 中2)
春組ダニエル	松本麻稀	(まつもと まき 小6)
夏組ダニエル	菊池愛	(きくち あい 小6)
春組アン	川田菜々子	(かわだ ななこ 中1)
夏組アン	鈴木麻祐理	(すずき まゆり 中3)
春組ベン	石川彩楓	(いしかわ あやか 中2)
夏組ベン	村田実紗	(むらた みさ 中2)
春組ペティ	小松詩織	(こまつ しおり 小4)
夏組ペティ	佐野桃子	(さの ももこ 小5)
春組パティ	國分亜沙妃	(こくぶ あさひ 小3)
夏組パティ	桑原ちあき	(くわはら ちあき 小4)
春組メアリー	中原櫻乃	(なかはら さくらの 小6)
夏組メアリー	利川杏菜	(としかわ あんな 小6)
風のウェンディ	高橋美衣	(たかはし みい 中2)
クリス	越川萌花	(こしかわ もか 中3)
葉っぱ	福満美帆	(ふくみつ みほ 高3)
葉っぱ	赤須千夏	(あかす ちなつ 中3)
マーク・メフィスト	井手口拓也	(いでぐち たつや 専門2年)

以上、21名



6. 国際森林年記念会議

国際森林年の認知向上ならびに理解促進を図り、国民の森林保全・利用に対する具体的な行動喚起へとつなげるべく、新聞各社や関係省庁との共催で記念会議を開催した。会議実施後、各紙にて記事を掲載することで、会議に参加できなかった国民に対しても、広く意識の向上を図った。

年間で計 5 回の記念会議を実施し、述べ 1,850 名が参加した。

① 国際森林年記念会議「生物多様性・観光と森林」

【事業概要】

2010 年国際生物多様性年に COP10 が開催され、生態系保護の新戦略目標「愛知ターゲット」が採択された名古屋で「生物多様性に貢献する持続可能な森林管理・利用及びこれらと調和したツーリズム」をテーマに、中日新聞と連携し、公開シンポジウムを実施。

【日時】 2011 年 7 月 21 日（木） 13：30～16：30

【場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター 2 階）

【参加人数】 約 680 名

【報道状況】 2011 年

中日新聞 朝刊（7/23）

東京新聞 朝刊（8/28）

【プログラム】

- 開会スピーチ：佐々木崇夫（中日新聞社常務取締役）
皆川芳嗣（林野庁長官）
- トークショー「人が集う森へ～ツーリズムの視点から～」
田部井淳子（登山家）
廣川建司（雑誌「岳人」編集長）
- パネルディスカッション「愛知ターゲットの 2020 年、都市と森のあるべき姿」
香坂玲（名古屋市立大学準教授）
田中律子（女優）
小松幸代（イオン株式会社グループ環境最高責任者）
皆川芳嗣（林野庁長官）
溝畑宏（観光庁長官）
飯尾歩（中日新聞論説委員）

② 朝日地球環境フォーラム「国際森林年特別セッション」

【事業概要】

朝日新聞と連携し、同社の地球環境報道の基幹イベント「朝日地球環境フォーラム 2011」にて、「自然と人間 再生する日本ーポスト 3・11 のメッセージ」という全体テーマのもと、環境問題の主要トピックとして「国際森林年特別セッション」を実施。森林・林業の有効活用、持続可能な森林利用、人と農村との共生など、幅広い視点で議論が行われた。

【日時】 2011 年 9 月 16 日（金） 19：00～21：00

【場所】 ホテルオークラ東京

【参加人数】 約 200 名 ※全体では、1、2 日目累計 延べ約 3,000 名

【報道状況】 2011 年

朝日新聞 朝刊（8/3、9/5、9/14、9/16、9/17、9/24、9/25、9/26）

【プログラム】

1. 基調講演：エマヌエル・ゼ・メカ（国際熱帯木材機関（ITTO 事務局長））

2. パネルディスカッション

〔コーディネーター〕

末吉竹二郎（国連環境計画（UNEP）金融イニシアチブ特別顧問）

〔パネリスト〕

井上真（東京大学大学院教授）

草野満代（国際森林年国内委員、フリーアナウンサー）

泊みゆき（NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長）

末松広行（林野庁林政部長）

③ 国際森林年記念シンポジウム「誰もができる森林保全」

【事業概要】

毎日新聞と連携し、国連大学、国土緑化推進機構、森林と市民を結ぶ全国の集い・世界森林アクション・サミット実行委員会の協力を得て、「持続・再生可能な資源としての森林保全」、「誰もができる森林保全」をテーマに、森づくりの意義や森の大切さを考え、森の未来像を描いていくシンポジウムを実施。

【日時】 2011 年 10 月 10 日（月） 13：00～16：30

【場所】 国連大学（ウ・タント 国際会議場）

【参加人数】 170 名

【報道状況】 2011 年

毎日新聞 朝刊（10/12、11/9）

【プログラム】

■ 第一部

1. ミニコンサート：「僕にできる事、森へのオマージュ」
歌手：雨谷麻世（ソプラノ歌手）
2. 基調講演「市民共同の森づくり」
宮林茂幸（国際森林年国内委員、東京農業大学教授）

■ 第二部

- ・パネルディスカッション「誰もができる森林保全」
〔コーディネーター〕
斗ヶ沢俊（毎日新聞社水と緑の地球環境本部長）
〔パネリスト〕
松浦成夫（NPO 法人 時の寿の森クラブ理事長）
鹿住貴之（NPO 法人 JUON NETWORK 理事・事務局長）
沼田正俊（林野庁次長）

④ 国際森林年記念会議「“森林・林業再生”から見えてくる、日本の未来」

【事業概要】

日経新聞と連携し、「森林・林業再生」から見えてくる、日本の未来」をテーマに、地域振興、創エネルギー、地球温暖化防止などの森林が持つ様々な可能性について、海外の有識者も交え意見を交わした。

【日時】 2011 年 10 月 25 日（火） 13：00～16：45

【場所】 日経ホール

【参加人数】 500 名

【報道状況】 2011 年

日本経済新聞 朝刊（9/23、10/7、10/25、11/21）

【プログラム】

■ 第一部

1. 基調講演「サケが森をつくっていた。そしてカナダは林道を元に戻している」
C.W.ニコル（国際森林年国内委員、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長）
2. 講演「世界のバイオマス市場」
レオ・シルンホーファー（オーストリア・ポリテクニク社 代表）
3. 事例報告①「保続的森林管理と林業再生への取り組み」
片岡明人（住友林業 執行役員 山林環境本部長 兼 山林部長）
4. 事例報告②「森林保有 100 年の企業哲学と、これからの森づくり」
青木雄一（三井物産 理事 環境・社会貢献部長）

■ 第二部

・パネルディスカッション

「私たちが、森林（もり）に生かされて生きるために―東北をモデルに考える―」

〔コーディネーター〕天野礼子（国際森林年国内委員、作家）

〔パネリスト〕

養老孟司（国際森林年国内委員、日本に健全な森をつくり直す委員会委員長）

大久保尚武（国際森林年国内委員、経団連自然保護協議会会長）

末松広行（林野庁 林政部長）

〔閉会コメント〕菅直人（衆議院議員、前内閣総理大臣）

⑤ 国際森林年記念シンポジウム「よみがえる日本の森～大震災をこえて～」

【事業概要】

読売新聞と連携し、「よみがえる日本の森～大震災をこえて～」をテーマに、森林・林業を再生し、震災と津波で失われた海岸林や生活基盤の農業漁業をよみがえらせる道筋について考えるシンポジウムを開催。

【日時】2011年11月1日（火）13:00～16:00

【場所】時事通信ホール

【参加人数】279名

【報道状況】2011年

読売新聞 東京セット版（11/27）

【プログラム】

1. 対談

〔司会者〕渡辺真理（フリーアナウンサー）

〔登壇者〕

皆川芳嗣（林野庁長官）

藤原忠彦（全国町村会長）

2. パネルディスカッション

〔コーディネーター〕

渡辺真理

〔パネリスト〕

坂本知己（森林総合研究所 気象害・防災林研究室長）

畠山重篤（牡蠣の森を慕う会（NPO 法人森は海の恋人）代表）

多田欣一（国際森林年国内委員、岩手県住田町長）

〔オブザーバー〕

皆川芳嗣（林野庁長官）

藤原忠彦（全国町村会長）

⑥ 震災復興支援シンポジウム

【事業概要】

国連生物多様性の10年と国際森林年を踏まえて、震災復興の方法を議論するとともに復興のための環境にやさしい持続可能な政策を見出すことを目的に開催。牡蠣養殖業者であり今回の被災者でもある畠山氏から復興に向けた基調講演の後、大学教授や各省庁の担当者から震災復興への取り組みや、森・里・海の連環に根ざした地域再生、林業や水産業の再生策、国立公園を軸にした復興構想などが紹介された。

【日時】2011年5月22日（日）

【場所】国連大学ウ・タント国際会議場

【参加人数】450名

【報道状況】2011年

読売新聞 朝刊（5/23）

富山新聞（5/23）

北国新聞（5/23）

産経新聞 朝刊（6/3）

中日新聞（6/5）

（財）地球人間環境フォーラム機関誌 6月号

国連大学のシステムによるインターネット中継（5/22）

【プログラム】

1. 「気仙沼における漁業の復興へ」ドキュメンタリービデオ

2. 開会挨拶

松本龍（防災担当大臣、環境大臣）

コンラッド・オスターヴァルダー（国連大学学長、国連事務次長）

3. 基調講演 「震災復興に向けて～森と海の連環～」

講師：畠山重篤（牡蠣の森を慕う会（NPO 法人森は海の恋人）代表）

4. パネルディスカッション

〔コーディネーター〕

武内和彦（国連大学副学長、日本造園学会会長）

〔パネリスト〕

畠山重篤（牡蠣の森を慕う会（NPO 法人森は海の恋人）代表）

スリカンタ・ヘラート（国連大学）

田中克（京都大学名誉教授）

末松広行（林野庁林政部長）

橋本牧（水産庁漁港漁場整備部長）

渡邊綱男（環境省自然環境局長）

7. 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い

国際森林年の全国的な展開を目指すために、「森を歩き、次世代に継承する」をテーマに、地方自治体、地方森林管理局、都道府県緑化推進委員会等と連携しながら、2011 国際森林年記念行事「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い」を全国 15 カ所で実施。

●表 「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い」実施リスト

No	地方	場所	日程	国内委員会、林野庁関係者
1	中国	岡山県真庭市	7月17日(日)	ニコル委員
2	九州	宮崎県宮崎市	7月23日(土)	坂本委員、林野庁林政部長
3	近畿	滋賀県長浜市 山門水源の森、 西浅井文化ホール	7月23日(土)	—
4	近畿	大阪木材会館	8月17日(水)	林野庁木材産業課長
5	近畿	京都府立植物園	8月27日(土)	—
6	北海道	紋別市市民会館	9月4日(日)	天野委員
7	中部	三重県伊勢市	9月24日(土)	速水委員
8	東北	岩手県盛岡市	10月8日(土)	飯塚委員、多田委員、林野庁次長
9	中部	長野県信濃町	10月15日(土)	ニコル委員、林野庁林政部長
10	中部	三重県尾鷲市	10月15日(土)	—
11	東北	宮城県大崎市	10月23日(日)	林野庁長官
12	近畿	大阪市万博記念公園	10月30日(日)	林野庁海外林業協力室長
13	中国	石川県津幡町	11月6日(日)	養老委員
14	東北	福島県郡山市	11月13日(日)	宮林委員、林野庁次長
15	近畿	兵庫県宍粟市	11月19日(土)	養老委員

① 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 岡山県真庭市

【事業概要】

集いの共通テーマ「次世代への継承」に加え、岡山の集いではサブテーマを「森林循環のバイオマス利活用と多様な主体による森づくり」として、二部構成で開催した。

【日時】2011年7月17日（日）10：00～16：00

【場所】北房文化センターホール

【参加人数】300名

【協賛企業】株式会社トンボ、株式会社中国銀行

【報道状況】2011年

山陽新聞（6/20、7/18）

読売新聞（7/18）

【プログラム】

■ 第一部 映画「森聞き」上映会

■ 第二部 国際森林年の集いシンポジウム

「次世代への継承－森林循環のバイオマス利活用と多様な主体による森づくり」

1. 開催挨拶

井手紘一郎（真庭市長）

足羽憲治（岡山県農林水産部長）

浅野實（岡山県議会議員）

2. 国際森林年キーノートスピーチ

渋澤寿一（NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長）

3. リレートーク「森林とのいろいろなつながり方を知る」

[コメンテーター]

C.W.ニコル（国際森林年国内委員、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長）

[発表者]

加納容子（平成17年度森の名手・名人、草木染め 真庭市）

勝山高校プロジェクトチーム バイオマスコースのみなさん（真庭市）

丹羽健司（NPO法人賀露おやじの会事務局長 鳥取県智頭町）

前垣壽男（西条・山と水の環境機構、西条酒造協会理事長 広島県東広島市）

② 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 宮崎県宮崎市

【事業概要】

集いの共通テーマ「次世代への継承」に加え、宮崎ではサブテーマを「森のめぐみ、森のくらし、森に聞く」として、二部構成で開催した。

【日時】2011年7月23日（土）12：30～16：45

【場所】サンホテルフェニックス宮崎国際会議場

【参加人数】500名

【報道状況】2011年

宮崎日日新聞（6/27、7/24）

朝日新聞（7/21）

読売新聞（7/24）

【プログラム】

■ 第一部 映画「森聞き」上映会

■ 第二部 国際森林年の集いシンポジウム

「次世代への継承 - 森のめぐみ、森のくらし、森に聞く」

1. 開催挨拶 河野俊嗣（宮崎県知事）

2. 国際森林年キーノートスピーチ

末松広行（林野庁林政部長）

3. 語り合い1「森のめぐみ、森のくらしを語る」

〔聞き手〕

吉野奈保子（NPO 法人共存の森ネットワーク事務局長）

〔話し手〕

椎葉クニ子（平成17、20年度森の名手・名人、宮崎県椎葉村）

中山きくの（平成20年度椎葉クニ子氏の聞き書き）

4. 語り合い2「森の仕事、森の価値を語る」

〔聞き手〕

吉野奈保子（NPO 法人共存の森ネットワーク事務局長）

〔話し手〕

坂本龍一（国際森林年国内委員、音楽家、モアトゥリーズ代表）

水谷伸吉（一般社団法人モアトゥリーズ事務局長）

矢房孝広（一般社団法人諸塚村観光協会、諸塚村企画課課長）

③ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 琵琶湖・淀川流域 第1弾『森を歩く』

【事業概要】

上流域の水源の森から、下流域の都市部まで琵琶湖・淀川流域を一体としてとらえ、滋

賀県、京都府、大阪府で連続4シリーズの集いを開催。第1弾である滋賀県長浜市での開催では、国内テーマ「森を歩く」を踏まえ、また「びわ湖の日」30周年を記念して、琵琶湖・淀川水系の源流である森林を歩き、森と水との関わりを流域の市民と考える集いとした。

【日時】2011年7月23日（土）10：00～16：00

【場所】長浜市西浅井文化ホール・山門水源の森（滋賀県長浜市）

【参加人数】午前の部（西浅井文化ホール）120名

午後の部（山門水源の森）100名

【共催】長浜市、森林環境の保全・整備連絡調整会議、（社）滋賀県造林公社、
（財）びわ湖造林公社

【後援】山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会、（財）滋賀県緑化推進会

【報道状況】特になし

【プログラム】

1. 開催挨拶 押谷正 （滋賀県琵琶湖環境部技監）
2. 講演会「びわ湖の水の源を考える」
只木良也 （名古屋大学名誉教授）
3. 森林体験ツアーの案内
藤本秀弘 （「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」事務局長）
4. 昼食・バスで移動（移動時間約15分）
5. 森林体験ツアー
挨拶 浅井正彦 （「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」副会長）
水源の森を体験 （四季の森コース／湿原コース）

④ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 琵琶湖・淀川流域 第2弾『森を学ぶ』

【事業概要】

琵琶湖・淀川流域 第2弾では、共通テーマ「次世代への継承」に加え、「森を学ぶ」と題し、上流域で生産された木材を下流域の都市の快適な暮らしに活用する方法について学ぶ、「国産材を活用したヒートアイランド対策」シンポジウムを開催。

【日時】2011年8月17日（水）13：30～16：30

【場所】大阪木材会館（大阪市西区新町3-6-9）

【参加人数】120名

【報道状況】2011年

林経新聞（8/25）

日刊木材新聞（9/7）

林業新聞（9/14）

【プログラム】

1. 基調講演「ヒートアイランドの構造と考え方」
水野稔（大阪大学名誉教授、
国産材を活用したヒートアイランド対策協議会代表幹事、
大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム理事長）
2. 講演1 「今後の木材利用促進の動き」
瀧上和之（林野庁 木材産業課長）
3. 講演2 「木材と都市ランドスケープ」
河井敏明（河井一級建築士事務所）
4. 講演3 「ヒートアイランド対策 都市建築での国産材の活用」
越井潤（国産材を活用したヒートアイランド対策協議会事務局）
5. 情報提供「間伐材活用耐震補強システム 壁柱」
三宅英隆（社団法人 大阪府木材連合会専務理事）

⑤ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 琵琶湖・淀川流域 第3弾『森を語る』

【事業概要】

琵琶湖・淀川流域 第3弾では、集いの共通テーマ「次世代への継承」に加え、「森を語る」と題し、修験の場としての森、人々の暮らしを支えてきた里山、市民の憩いの場である街なかの緑等、様々な形で私たちの心や暮らしと深く関わっている森林について、文化的視点から考える機会とした。

【日時】2011年8月27日（土）13：30～16：00

【場所】京都府立植物園（左京区下鴨半木町）

【参加人数】80名

【報道状況】2011年

読売新聞（8/26）

京都新聞（8/26）

【プログラム】

1. 基調講演「『修験』と『森』」
宮城泰年（本山修験宗管長、聖護院門跡門主）
2. 鼎談「森を語る～以森伝心～」
 - ①「信仰」と森・・・宮城泰年（本山修験宗管長、聖護院門跡門主）
 - ②「里山」と森・・・只木良也（国民森林会議会長、名古屋大学名誉教授）
 - ③「市民」と森・・・高原光（京都府立大学大学院教授）

⑥ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 北海道紋別市

【事業概要】

北海道紋別市での集いでは、共通テーマ「次世代への継承」に加え、「紋別の森から未来の日本を語る」と題して、森林の持つ多様な価値や機能、持続可能な森林管理やカーボン・オフセットの取り組みなど、森林とのいろいろなつながり方を知り、紋別の森から未来の日本を考える機会とした。

【日時】2011年9月4日（日）10：00～16：30

【場所】紋別市市民会館（紋別市潮見町1丁目4番3号）

【参加人数】300名

【協賛企業】オホーツク紋別空港ビル株式会社

【報道状況】2011年

北海道民友新聞（9/7）

【プログラム】

■ 第一部「森を歩き、知恵を学ぶ」

講演 倉橋昭夫（平成18年度森の名手・名人（森の案内））

■ 第二部

1. シンポジウム 次世代への継承ー紋別の森から日本の未来を語る
宮川良一（紋別市）、野呂田隆史（北海道水産林務部長）
2. キーノートスピーチ 天野礼子（国際森林年国内委員、作家）
3. 事例紹介「森林とのいろいろなつながり方を知る」
 - ①「持続可能な森林経営と都市・企業との連携」徳正修一（紋別市）
 - ②「みなと森と水ネットワークの取り組み」中林淳一（東京都港区）
 - ③「北海道内のカーボン・オフセットの状況」長谷川勝也（㈱エコノス）
 - ④「北海道の広葉樹を活かすものづくり」坂野徳三郎（㈱木健）
4. パネルディスカッション
〔コーディネーター〕
黒瀧秀久（東京農業大学教授）
〔パネリスト〕
倉橋昭夫（平成18年度森の名手・名人（森の案内））
松井雅嗣（オホーツク魚の市民植樹祭実行委員会委員）
遊佐弘子（生協協同組合コープさっぽろ北見地区担当理事）
佐藤健右（佐藤木材工業（株）総務部次長）
山中義唯（日榮畜産有限会社専務取締役）

⑦ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 三重県（第1弾）

【事業概要】

三重県伊勢市の集いでは、共通テーマ「次世代への継承」に加え、「三重の森林・林業の未来を考える」と題し、神宮司庁のガイドのもと、普段は入林することのできない神聖な森「伊勢神宮の宮域林」を散策するプログラムと、三重の森林の活かし方について語り合う機会とした。

【日時】2011年9月24日（土）9：30～15：45

【場所】第一部 伊勢神宮 宮域林

第二部 いせ市民活動センター（伊勢市岩渕1-2-29）

【参加人数】第一部 50名（午後のシンポジウム参加の方、小学生以上）

第二部 150名

【報道状況】2011年

中日新聞 広域三重（9/25）

【プログラム】

■ 第一部 森林散策プログラム「歩こう！神宮の森」

■ 第二部 シンポジウム「もっと知ろう！三重の森林」

1. 基調講演「国際森林年について」

速水亨 （国際森林年国内委員、速水林業代表取締役社長）

2. パネルディスカッション「活かそう！三重の森林」

〔コーディネーター〕

速水亨 （国際森林年国内委員、速水林業代表取締役社長）

〔パネリスト〕

金田憲明 （神宮司庁営林部長）

江崎貴久 （海島遊民くらぶ代表）

小椋久美子 （元バドミントン日本代表）

鈴木英敬 （三重県知事）

⑧ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 岩手県盛岡市

【事業概要】

東日本大震災を受けて、被災地とその周辺地域を中心に森林・林業・木質バイオマスを活用した復旧や復興支援もはじまっている。それを踏まえ、盛岡市の集いでは、市民育樹祭と連動してシンポジウムを実施し、森林の資源を活用し、次世代へ継承していくため、森の恵みの大切さを語る機会とした。

【日時】2011年10月8日（土）9：30～16：50

【場所】第一部 外山森林公園（玉山区藪川字大の平 31-1）

第二部・第三部 盛岡市中央公民館（愛宕町 14-1）

【参加人数】第一部 220 名

第二部・第三部 190 名

【報道状況】2011 年

岩手日報（10/9）

【プログラム】

■ 第一部 盛岡市市民育樹祭

■ 第二部 映画「森聞き」上映会

■ 第三部 シンポジウム「次世代への継承－森の恵みを分かち合う」

1. 挨拶 沼田正俊 （林野庁次長）

東大野 潤一 （岩手県農林水産部部長）

2. キーノートスピーチ

飯塚昌男 （国際森林年国内委員、日本林業協会会長）

3. リレートーク「森の恵みを分かち合う」

①森の交流を通じた子どもたちの心のケア

江見夏恵 （ハートフルワークいわて）

②地域材を使った仮設住宅プロジェクト

多田欣一 （国際森林年国内委員、岩手県住田町長）

③岩手県大槌町での震災聞き書き活動

吉野奈保子 （NPO 法人共存の森ネットワーク）

④大震災と森林ボランティアにできること

斉藤文男 （NPO 法人いわて森林再生研究会）

⑤震災復興とオフセット・クレジット

高橋幸男 （釜石地方森林組合参事）

4. 合唱 Wa のまちもりおか「森の恵み」

⑨ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 長野県信濃町

【事業概要】

長野県信濃町での集いでは、同町で進めている森林療法（森林セラピー）を中心に、その先進地域であるドイツの有識者も交え、森林の機能とその活用方法、これからの可能性について考える機会とした。

【日時】2011 年 10 月 15 日（土）9：00～17：00

【場所】黒姫ライジングサンホテル

【参加人数】150 名

【報道状況】 2011 年

SBC ニュース 15 分番組 (10/15) 17 : 15～

【プログラム】

■ 第一部

1. 日独交流セレモニー (バートウェーリスホーヘン市・信濃町)
2. 記念講演「アフアの森からみえるもの」
C.W.ニコル (国際森林年国内委員、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長)
3. 事例紹介
 - ・「日本国内における森林の活用」
上原巖 (東京農業大学教授)
 - ・「長野県及び信濃町の癒しの森」
高力一浩 (信濃町癒しの森・森林メディカルトレーナー)
 - ・バイエルン州バートウェーリスホーヘン市の森林保養の取り組み
アレキサンダー・ホー・フェネックス (バートウェーリスホーヘン市)
4. パネルディスカッション
 - [コーディネーター]
上原巖 (東京農業大学教授)
 - [パネリスト]
高力一浩 (信濃町癒しの森・森林メディカルトレーナー)
アレキサンダー・ホー・フェネックス (バートウェーリスホーヘン市)
C.W.ニコル (国際森林年国内委員、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長)
小島和夫 (長野県林政部)
末松広行 (林野庁林政部長)

■ 第二部

信州・信濃町癒しの森 プチ体験会 (癒しの森散策、森のアロマ抽出講座ほか)

⑩ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 三重県 (第 2 弾)

【事業概要】

三重第 2 弾の集いでは、共通テーマ「次世代への継承」に加え、「次世代につなぐみえの森林・林業」と題して、作家の三浦しをん氏をまじえて、森林・林業の魅力について語り合う機会とした。

【日時】 2011 年 10 月 15 日 (土) 13 : 30～15 : 00

【場所】 三重県立熊野古道センター (尾鷲市向井 12-4)

【参加人数】 200 名

【報道状況】 2011 年

中日新聞 広域三重 (10/16) 17:15～

紀勢新聞 (10/16)

【プログラム】

■ 鼎談：「次世代につなぐ みえの森林・林業」

〔話し手〕

三浦しをん (作家)

白木投和 (第1回森の聞き書き甲子園参加者、京都大阪森林管理事務所造林主幹)

〔聞き手〕

吉野奈保子 (NPO 法人共存の森ネットワーク事務局長)

⑩ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 宮城県大崎市

【事業概要】

大崎市での集いでは、震災復興に向けた森林と木材活用の計画的な再生に向け、流域ごとに森林の役割や流域が連携した統合性のある第一次産業の再構築の必要性など、流域圏という視点からみたこれからの森の恵みの活用について考える機会とした。

【日時】 2011 年 10 月 23 日 (日) 13:30 ~ 16:00

【場所】 パレットおおさき

【参加人数】 200 名

【報道状況】 2011 年

日刊大崎タイムス (11/29)

【プログラム】

1. オープニング ミニコンサート

ミュージカル「葉っぱのフレディー -いのちの旅-」より

2011 フレディーズ (国際森林年子ども大使)

2. 記念講演「森林の役割とこれからの森の恵みを考える」

皆川芳嗣 (林野庁長官)

3. パネルディスカッション おおさきの森の恵みをどう活かすか

〔コーディネーター〕

清和研二 (東北大学大学院農学研究科教授)

〔パネラー〕

皆川芳嗣 (林野庁長官)

大場雅之 (上流域から、鳴子林業研究会連絡協議会長)

あん・まくどなるど (中流域から、上智大学大学院地球環境学研究科教授、
国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長)

太田実 (下流域から、道の駅 上品の郷駅長)

⑫ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 琵琶湖・淀川流域 第4弾『森をつなぐ』

【事業概要】

琵琶湖・淀川流域 第4弾では、万博会場跡地から「自立した森（生態系の循環のある生物多様性豊かな森）」の再生を目指すプロジェクトが始動し、40年の年月を経てオオタカが営巣出来るまでに自然環境が回復している万博記念公園にて、人の手で再生されてきた森について考える機会とした。

【日時】2011年10月30日（日）10：00～16：30

【場所】万博記念公園 自然観察館

【参加人数】170名

【報道状況】特になし

【プログラム】

■ 第一部 森を感じる バードウォッチング

案内：日本野鳥の会大阪支部

■ 第二部 森を育てる・森林が育む

・「国際森林年に寄せて」

上田浩史（林野庁 海外林業協力室長）

・「万博公園40年の森林再生の取組み」

池口直樹（（独）日本万国博覧会記念機構自立した森再生センター長）

・「木質バイオマスの利活用」

大塚憲昭（NPO 法人里山倶楽部理事）

・「都市の子どもたちの環境学習支援」

山田一子（自然観察学習館ソラードの会）

■ 第三部 森をつなぐ

・パネルディスカッション

[パネリスト]

森本幸裕（京都大学 地球環境学堂教授）

伊藤壽記（大阪大学 医学部教授）

小川雅由（NPO 法人こども環境活動支援協会 理事・事務局長）

池口直樹（（独）日本万国博覧会記念機構自立した森再生センター長）

上田浩史（林野庁 海外林業協力室長）

⑬ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 石川県津幡町

【事業概要】

石川県津幡町の集いでは、動植物について実際に観察し解説を聞くプログラムと地球規模の生態系、その中での、森林資源の持続可能性・重要性についての講演を実施。

【日時】2011年11月6日（日）10:00～16:30

【場所】第一部 石川県森林公園

第二部 津幡町文化会館シグナス

【参加人数】第一部 60名

第二部 500名

【報道状況】2011年

北國新聞（11/7）

北陸中日新聞（11/7）

読売新聞（11/7）

【プログラム】

■ 第一部 森を歩こう～MISIAの森でいきもの調査

■ 第二部 国際森林年の集いシンポジウム

谷本正憲（石川県知事）、矢田富郎（津幡町長）

（ビデオレター）アーメド・ジョグラフ、ジャン・マッカルパイン、MISIA

・基調講演「森林と生物多様性」

養老孟司（国際森林年国内委員、日本に健全な森をつくり直す委員会委員長）

・リレートーク「次世代への継承～森と人との絆」

解説 代田七瀬（NPO 法人共存の森ネットワーク理事）

「森の聞き書き甲子園とは」

塩野米松（作家、NPO 法人共存の森ネットワーク理事長）

石下哲雄（森づくり名人、輪島市）

（石川県指導林家、石川県健康の森交流センター館長）

辻新太郎（木地名、加賀市）

（木地師、石川県立山中漆器産業技術センター講師）

山下進一（森づくり名人、津幡町）

（石川県林業研究グループ連絡協議会会長）

・MISIAの森 小学生発表

津幡町立英田小学校 児童6名、教員3名

⑭ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 福島県郡山市

【事業概要】

福島県の集いでは、東日本大震災を踏まえ、被災地から「ふるさとの森と水の大切さ」を発信し、未来に大切に手渡すための方策を探ることをテーマに、講演とディスカッションを行った。

【日時】 2011年11月13日（日）13：30～16：55

【場所】 郡山ユラックス熱海

【参加人数】 200名

【報道状況】 2011年

福島民友新聞（9/1、9/15、9/26、9/27、10/5、10/15、10/27～31、11/13、11/15、11/29）

福島中央テレビ スポット CM（9/15～10/初旬）

【プログラム】 ふくしま再生 森と水シンポジウム

・開催挨拶

沼田正俊 （林野庁次長）

神田俊甫 （福島民友新聞社代表取締役社長）

・基調講演「国際森林年によせて、流域から考える森林と人」

宮林茂幸 （国際森林年国内委員、東京農業大学教授）

・パネルディスカッション「いのちの森林を育む福島の森と水」

〔コーディネーター〕

鈴木浩 （福島大学名誉教授）

〔パネリスト〕

新国勇 （只見の自然に学ぶ会 代表）

山本洋一郎 （うつくしま炭友会 事務局長）

鈴木克夫 （いわき青年林業会議所 会長）

沼田正俊 （林野庁次長）

⑮ 市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 兵庫県宍粟市

【事業概要】

「森と生きるまち」をキャッチフレーズに、計画的な森林施業による林業再生と「森のゼロエミッション構想」による森林資源を中心とした資源循環型社会づくりを進めている兵庫県宍粟市では、宍粟市の森林を活かし、健全な森林を次の世代につないでいくことの大切さを考える機会とした。

【日時】 2011年11月19日（土）13：15～15：50

【場所】 宍粟市山崎文化会館大ホール

【参加人数】 300名

【報道状況】 特になし

【プログラム】

■ 第一部 基調講演『森から始める地域再生』

養老孟司 （国際森林年国内委員、日本に健全な森をつくり直す委員会委員長）

■ 第二部 パネルディスカッション『宍粟の森 今 これから』

〔コーディネーター〕

川井秀一 （京都大学教授）

〔パネラー〕

長野隆一 （東河内株山共有林代表）

前田将吾 （(株) グリーン興産専務取締役）

衣笠萬三 （宍粟 50名山ガイドクラブ会長）

栗田泰博 （(株) 日本触媒総務グループリーダー）

